

# シンガポール・チャンギ地域の特性を生かした授業づくり

## — 2年生活科「行くぞ！チャンギビレッジたんけんたい」の実践を通して —

前シンガポール日本人学校チャンギ校 教諭  
宮城県仙台市立南小泉小学校 教諭 佐々木 聡 一

キーワード：教科指導（生活科）、現地理解教育、英語教育

### 1. 単元について

本校2年生児童は、これまでに「～探検」という学習単元を通して、学校内外の様子を知ることができた。本単元では、特定の地域の様子を知るだけでなく、そこで働く人々とのかかわりや人々の様子を知ることがねらいとしている。また、児童が「探検」を通してもった興味や疑問をインタビュー活動を通して解決したり、より詳しく調べたりすることで、生活科の目標である「自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、それらに愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。」につながっていけると考える。また、本単元は、3年生社会科の商店街の学習につながるものである。そのため、この学習では、チャンギビレッジ全体の様子を調べるのではなく、お店で働く人に焦点化して学習を進めていく。本単元は平成19年度2学期に実施した。

- 1年・・・学校探検（学校の様子を知る）
- 2年1学期・・・学校周辺探検（学校の周りの様子を知る）
- 2学期・・・チャンギビレッジ探検（お店で働く人の様子を知る）
- 3学期・・・チャンギ空港探検（公共の乗り物を使って学校近くの空港へ行く）

### 2. チャンギビレッジについて

チャンギビレッジは、シンガポールの東部、チャンギフェリーターミナル側にある、日本でいう商店街のようなものである。お店は、肉、魚、野菜など生鮮食料品を中心に扱う「ウェットマーケット」、中華、マレー、インドなど様々な料理が気軽に食べられる、シンガポールの食生活には欠かせない屋台形式のようなフードセンターである「ホーカー」、雑貨、釣り具、衣料品などを扱う「専門店」の大きく3つに分けられる。

このような形態の商店街は、都心部はもちろん、各ニュータウンの住宅エリア、駅の側など人が集まるところにたくさんつくられている。チャンギビレッジは、公共バスで学校から10分程である。



チャンギビレッジ探検

### 3. 学習の実際（全24時間）

【第1次（見つける）】学校のまわりに住んでいる人たちの買い物について調べよう（2時間）

学習活動	具体的な内容と留意点
1 買い物について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが普段買い物をしている場所について話し合う。</li> <li>学校周辺の人たちはどこに買い物に行くのか疑問を持つ。</li> </ul>
2 見学の視点を話し合う。 (学年集会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャンギビレッジについて知る。</li> <li>どんなことを調べたらよいか見学の視点について話し合う。</li> <li>児童から出てきた見学の視点のレベル分け（お店を見ただけでわかること、聞いてみないとわからないことなど）をする。</li> <li>以後の学習で、この見学の視点を柱に学習を進める。</li> </ul>

【第2次（調べる）】チャンギビレッジをたんけんしよう（12時間）

1 チャンギビレッジ探検 (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャンギビレッジを探検する。ローカルの人の移動の様子も知るために往復路線バスを使う。</li> <li>各グループに保護者ボランティア1名が付き添うが、なるべく自力で調べられるように、保護者には児童の安全面などの管理のみをお願いする。</li> <li>話し合いで決めた見学の視点をまとめたワークシートにメモを取りながら、探検する。</li> </ul>
2 調べたことを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>探検して気づいたこと、思ったこと、不思議に思ったことなどをまとめる。</li> <li>学級全体ですりあわせる場を設定することで、さらなる追究意欲をかきたてる。</li> </ul>
3 調べたことについて話し合い、2回目の探検にむけての意欲を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポストイットに調べてきたことを書き、拡大シートに貼る。</li> <li>発見が多い視点と少ない視点があることに気づかせる。</li> <li>発見が少ない視点（仕事、こだわり）こそが、本単元の学習・2回目の探検において大切な視点であることに気づかせる。</li> <li>チャンギ校ビレッジで自分が開きたいお店を決めて、2回目の探検のグループを決める。</li> </ul>
4 2回目の探検で調べたいことや質問したいことなどを話し合い、決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちのお店を人気のあるものにするために、チャンギビレッジのお店から秘密を探るための質問を考える。</li> <li>相互評価をしながらグループで考えた質問内容を発表させることで、より質の高い質問になるようにする。</li> </ul>
5 質問内容を英訳する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>English Teacherと担任が連携して、見学の際の質問事項、あいさつの仕方などについて学習する。</li> <li>共通して使える基本フレーズ、困ったときの対処法などについても学習する。 *英会話部との連携 *英語の時間の活用</li> </ul>
6 上手に質問ができるように練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「しつもん名人になろう」というめあてを立て、グループごとに質問の練習をする。</li> <li>ゲストティーチャー（English Teacher）を招き、実際の場面を想定した練習の場を設定することで、自信を持ってチャンギビレッジ探検（2回目）に行けるようにする。 *場の工夫…ホーカーで忙しく調理をしている中華系のお店 *英会話部との連携</li> </ul>
7 チャンギビレッジ探検 (2回目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャンギビレッジを探検する。今回も、ローカルの人の移動の様子も知るために往復路線バスを使う。</li> <li>自分の開きたいお店を中心に調べる。</li> <li>各グループに保護者ボランティア1名が付き添う。</li> <li>自分の開きたいお店をくわしく調べるために、今回は買い物（1人SS5まで）をさせることにより、味や品物を確かめたり、お店の人とコミュニケーションを深めたりする。</li> </ul>

【第3次（伝える）】チャンギ校ビレッジを開こう（9時間）

1 オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャンギ校ビレッジオリエンテーション</li> <li>・ クラスを解体してグループを組み、その後の活動を行う。</li> <li>・ 活動のすすめ方の説明、グループ顔合わせ、お店の場所の決定。</li> <li>・ グループごとに計画を立てる。（お店のこだわり、作業分担他） *全34グループ、1グループ3～5人</li> </ul>
2 チャンギ校ビレッジの準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャンギ校ビレッジの準備を行う。</li> <li>・ お店を作る。（看板、メニュー、品物、その他お店に置いてあるもの）</li> <li>・ 商品は紙粘土、ダンボール、空き箱、画用紙などで工夫し作る。</li> </ul>
3 チャンギ校ビレッジ（児童の部）開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お店を開く児童、お客さんの児童に分かれて活動する。（交替）</li> <li>・ お客さんは、順番にお店をまわり、お店のこだわりや工夫したことを質問したり、お店の様子を見たりして、チェックカードに採点していく。</li> <li>・ お店を開く時には、必ずこだわりや工夫したことの説明をしたり、実際に売ったりして、プロフェッショナルの技を見せる。</li> <li>・ 実際にお金でやりとりをする。チャンギ校ビレッジ用のお金を準備する。（チャンギ校ビレッジMONEY/1人40SS+小切手）</li> <li>・ ふり返りカードを書き、活動を振り返る。学校公開での本番にむけて修正した方がよい点について話し合う。</li> </ul>
4 チャンギ校ビレッジ開催 *学校公開（保護者参観）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な活動内容については、チャンギ校ビレッジ児童の部（上記）と同じである。</li> <li>・ 保護者に加え、児童もお店をまわる。（前回まわれなかったお店）</li> <li>・ お店をまわる際に保護者へお願いした留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 探検してわかったことを生かして、お店を開いているかどうかを見る。</li> <li>○ 子どもたちが考えた「お店のこだわり」について質問し、しっかりと説明できているかを見る。</li> <li>○ 自分の子どものお店だけでなく、他のお店も平等にチェックし、よいと思ったお店で買い物をする。</li> <li>○ 保護者もチェックカードで各店の評価をする。</li> </ul> </li> <li>・ 各種表彰を行う。</li> </ul>

【第4次（生かす）】勉強したことをもとにやってみよう（1時間）

1 活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元全体を通して活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ お家の人ともう一度行きたいな。</li> <li>○ 他のホーカーやウェットマーケットにも行きたいな。</li> <li>○ 作文や絵にかいて、思い出を残しておきたいな。</li> </ul> </li> </ul>
------------	---

4. 実践を振り返って－手立てと効果－

①めざせプロフェッショナル

本実践では、特定の地域の様子を知るだけでなく、そこで働く人々との関わりや人々の様子を知ることをねらいとした。その道のプロ（お店の店員さん）から学んだことを実践し、自分たちの生活に生かしてほしいということから、「めざせプロフェッショナル」とサブテーマを設定した。

②英会話部との連携

本校英会話スタッフと連携し、授業をした。質問、あいさつ、基本フレーズの他、実際のお店の場面設定をしてロールプレイを行うなど工夫した結果、自信を持って会話をしていた児童が多数見られた。③保護者ボランティアの活用

2回の探検において、児童とともにお店をまわってもらった。学習に関連する事項の手助けではなく、基本的に

安全上の管理だけをお願いした。また、チャンギ校ビレッジ本番では、保護者にもお店をまわってもらい、各店の評価をお願いした。児童も大変励みになった。

#### ④ワークシートの活用

単元全体を通して、様々なワークシートを用意し、効果的に活用することができた。

#### ⑤学習形態の工夫

チャンギ校ビレッジでは、学級を解体してグループを組み、生活科の時間を学年で合わせ、学年全体で取り組んだ。グループ分けでは、児童の思いや願いを大切にしながらグループ編成をした。お店を特別教室に常設することで、いつでも活動ができるようにした。休み時間なども、協力して活動していた。

#### ⑥各賞の設定

児童が選ぶ人気のお店、保護者が選ぶ人気のお店、こだわりを大切に活動できたプロフェッショナルなお店などを表彰することを準備段階から伝えることで、活動を盛り立て、児童のやる気を高めることができた。また、日頃から店内をきれいにし、片付けもきちんとしているお店には、「A」のカードを店頭に貼った。シンガポールの飲食店では衛生状態に応じて「A」「B」「C」の表示がされており、それをまねてみた。その結果、片付けや整理整頓の意識も児童に徐々に浸透していったのは収穫であった。

#### ⑦活動目標の意識化・明確化の工夫

本単元は長いスパンの活動である。必要に応じて学年で活動を確認する体制をとることで、学年全体で共同歩調をとることができた。また、活動の目標を常に明確にしていくようにした。話し合いで決定した見学の視点はその後の活動の柱になり、常にその事項に返ることで目標を見失うことがなかった。低学年でも、児童と共に話し合い進んでいくという基本スタンスを大切にすることで得られた効果である。学校公開の場にチャンギ校ビレッジ本番を設定したこともやる気を高め、持続させることができた。

#### ⑧学習の流れの掲示、写真・資料の活用

各教室、学年掲示板などに活動の足跡をまとめ、掲示した。また、各教室のコンピュータに探検時の活動やお店の様子の写真を入れ、児童がいつでも見られるようにし、活動をサポートした。

#### ⑨校内研究とのかかわり

本単元で授業実践を積み重ねることで、研究主題「豊かな国際感覚をもち、世界の人々とつながろうとする子どもの育成」に迫ることができた。

#### ⑩評価の工夫

自己評価、児童による相互評価、教師の評価などを行うことで、活動の質を高めることができた。

#### ⑪地域を知る、シンガポールを知る

チャンギビレッジのようなホーカー、ウエットマーケット、シヨップの集合体は、シンガポールを象徴する施設である。児童にとってシンガポールを知るよい機会になった。

### 5. 今後の課題

○ポートフォリオの形式を取り入れるなどして、資料を蓄積・管理させながら、学習を進めればいつでも自分たちで振り返りができ、さらに効果的に学習を進めることができると考える。

○学習を通して考えたことを、自分自身の生活（生き方）と結びつけ、2年生なりに自分でできることを実行するところまでもっていくことができればよいと考える。